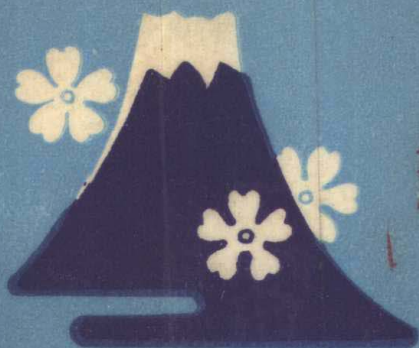


黑

衣

〔目〕有吉佐和子著

上海译文



日 汉 对 照

# 黑 衣

上海译文出版社

69.5

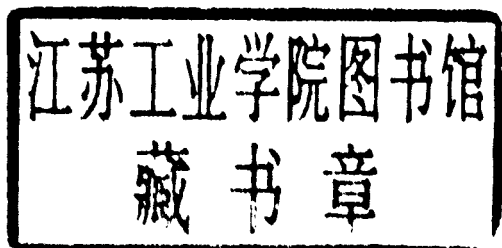
1

日 汉 对 照

# 黑 衣

〔日〕有吉佐和子 著

李进守 注释



上海译文出版社

本书原文选自新潮文库《地唄》1972年版

日 汉 对 照

黑 衣

〔日〕有吉佐和子 著

李进守 注释

---

上海译文出版社出版

上海延安中路967号

新华书店上海发行所发行

上海中华印刷厂印刷

---

开本 787×960 1/32 印张 4.25 字数 73,000

1979年11月第1版 1979年11月第1次印刷

印数：1—57,000册

书号：9188·53 定价：0.31元

## 出版说明

本书作者有吉佐和子是日本当代女作家，1931年生于和歌山市，1952年毕业于东京女子大学。1961年以来，她曾多次访问我国，对中日两国人民的友好和文化交流作出了积极的贡献。

《黑衣》原文选自日本新潮文库《地唄》短篇小说集，内容描写歌舞伎班里一个下级演员中村笔十郎的舞台生活，通过他后半生的不幸遭遇，反映了歌舞伎当前面临的各种根本问题。译文选自《有吉佐和子小说选》（人民文学出版社1977年版），译者文洁若。为便于读者对照，译文中个别地方略有改动。译文原注排在日文注释后面，用\*号表示。

本书阅读对象为大学日语专业学生和具有中等程度以上日语水平的自学者。

## 黒衣

なかむらよでじゅうろう　おおたにこういち  
中村筆十郎といえ<sup>1</sup>ば<sup>1</sup>、劇作家の大谷浩一が彼の  
はんしろう  
の半生をまとめて一冊の本にしたから、知る人  
ぞ知る<sup>2</sup>歌舞伎<sup>3</sup>役者である。その「筆十郎夜話」<sup>4</sup>  
は、実在の筆十郎を通して歌舞伎の下級俳優の  
せいいたい  
生態を描きながら、歌舞伎が今日直面している  
根本的な問題をはっきり掴み出し<sup>5</sup>た立派な仕  
事であつたし<sup>6</sup>、また文学的にも完成度の高いも

1. (といえ<sup>ば</sup>)词组。意为“一提到…”。但有时用来提示主题。这种情况相当于提示助词“は”。用于由前面的话题引起新的话题时。△「この本、陳君のものだけど、おもしろいから、読んでみない?」「ありがとう。だけど、陳君といえ<sup>ば</sup>、しばらく見えないけど、どうしたんだろうね」/“这本书是小陈的，很有趣，要看看吗?”“谢谢。一提起小陈，倒是好久没见了，他怎么样啊?”

2. (知る人ぞ知る)日本一首狂歌中有如下诗句：詩に歌に詠まれし花の塩梅は酸いも甘いも知る人ぞ知る。“ぞ”是带有强烈语感的文言系助词(即提示助词)之一，出现在句子中，起强调上面词的作用，要求以连体形结句。这一用法在日语文言文法上叫做“係結び”法则。此外，还有其他几个系助词列举如下，以供参考：“は”“も”要求以终止形结句。△時は金なり/时者金也。△敵は本能寺にあり/醉翁之意不在酒。△酸いも甘いも噛みわけ<sup>る</sup>/历尽沧桑。“なむ(なん)”“や”“か”要求以连体形结句。试比较：晁卿衡と言ひけり(没有强意)↔晁卿衡とぞ言ひける↔晁卿衡となむ言ひける(以上带有强意)↔晁卿衡とや言ひける↔晁卿衡とか言ひける(以上带有疑问的心情)。“こそ”要求以已然形结句。△物のあわれは秋こそまされ。(带有强意)

3. (歌舞伎)日本歌舞伎有着悠久的历史，是早在十七世纪末——十八世纪初就形成得较为完整而又颇受欢迎的一种独特

## 黑 衣\*

说起来，中村笔十郎也称得起是颇为一部分人所知的歌舞伎演员呢，剧作家大谷浩一曾经把他的半生经历写成了书。《笔十郎夜话》是一部出色的作品，它通过实际生活中的笔十郎，描述了歌舞伎班里下级演员的生活状况，准确地抓住了歌舞伎今天所面临的各种根本问题。从文学上来看，这部书的成就也很高。在这一点上，可以说

的古典戏剧。其角色在台上只管表演和道白，歌唱及剧情解释则由别人担任。传统的歌舞伎剧目的台词有一定的韵律和节奏感，如幕府末期的大师河竹默阿弥写的剧目大多是用“七五调”。歌舞伎有这样的特色：梆子、台词和伴奏音乐三者浑为一体，给观众以动听悦耳的音乐美感；戏装华丽，光彩夺目，特别是舞蹈剧，使观众有炫目的色彩感；亮相较多，使观众能产生犹如欣赏绘画、雕塑之美感。此外，歌舞伎的女角由男演员扮演，即所谓“女形（おやまやおんながた）”。这是歌舞伎的另一特色。

4.〔生態〕生物、动物、人类的生活状况。

5.〔掴み出す〕“…から…を出す”是“从…拿出…”的意思；而“…出す”除了表示使内在事物具体化、表面化之外，还有“开始…”的意思，如“売り出す”也可以说成“売り始める”那样。但一般地说，“…出す”是表示事物的发生和形成，而“…始める”是表示作用、现象、行动的开始。

6.〔し〕除用于并列陈述之外，还有从许多事例中举一例来说明理由的用法。△雨には降られるし、昨日はまいったよ/昨天被雨淋湿了，可受不了啊！

\* 歌舞伎里负责照料前台的人，因身穿黑衣，所以这么称呼。

のだった。その点では批評家からも読者からも<sup>おうぶん</sup>当然で応分の評価を受けたと思う。出版された当座は、各新聞雑誌の書籍紹介欄に例外なく取上げられたから、その頃は筆十郎も忙しかった。学生の歌舞伎研究会などから「お座敷」<sup>ざしき</sup>がかか<sup>な</sup>つたりしたからである。それに奈落<sup>ならく</sup>や楽屋<sup>がくや</sup>裏で会う人ごとに、本のことを種にし<sup>く</sup>て何か云われたり訊かれたりした。その都度<sup>つど</sup>筆十郎は困惑し、恐縮し、けれども一生懸命に努力して、  
「へえ<sup>6</sup>、なんでございます<sup>7</sup>。さいです。<sup>8</sup> へえ、どうも。いえ、その、なんでして<sup>9</sup>、へえ」  
と相手をしていた。だが、こんな調子<sup>ちようし</sup>だから学生たちは失望したし、楽屋内では間もなく皆が筆十郎の本のことを忘れてしまった。一つの本の主人公になったからといって<sup>10</sup>、筆十郎<sup>しゅつ</sup>が出世したわけではなかったからである。彼は相変

1. {…からも…からも}(从)…也…(从)…也…; 都。から: 表示起点和来源。当它表示动作“評価を受ける”的来源时, 则是指该动作的发动者“批評家”和“読者”。

2. {お座敷がかかる}惯用语。原义为艺人、艺妓被叫到宴会上表演或陪客。但在此文中带有引号, 应理解为“研究会的人还请笔十郎到会上介绍自己的舞台生活什么的, 把他忙个不可开交”。

3. {奈落}佛教用语。意为“地狱”。△奈落の底に落ちこむ/坠入十八层地狱。这里指舞台正下面的地下室, 因为这种地方比较阴暗。

4. {種にする}作为材料, 话题。

评论家和读者都曾给了它以应得的、恰如其分的评价。书刚一出版，各报刊的新书介绍栏里就都加以注意。由学生组织的歌舞伎研究会还请笔十郎到会上介绍自己的舞台生活什么的，把他忙个不可开交。而且只要有人在台仓或后台碰见他，就必然拿这本书当作话题，跟他扯上几句，或是提些问题。遇到这种时刻，笔十郎总感到窘得要命，可他还是勉强去搭讪。

“唉，是啊，是的。唉，实在是……不，喏，那可，唉。”

由于他总是这个样子，学生们就很失望。不久，伙伴们在后台也就把关于笔十郎的那本书忘掉了。笔十郎虽然成了一本书的主人公，却并没有发迹。他依然穿着黑衣，一走上舞台后就挤在屏风

---

5. (その都度) 相当于“そのたびに”，意为“每当遇到…时”。

6. (へえ) 徒弟、手艺人、商人等的俗语。相当于“はい”。

7. (でございます) “でござります”的音便，表示谦让的助动词。其含意相当于“です”“である”“だ”。

8. (さいです) 艺人、手艺人等用语。相当于“そうです”。

9. (なんでして) でして：是“です”的口语接续形。此“て”可以看成终助词。这种形式口语里用得很多。它是一种谓语的用言、助动词不以终止形结句而以“…て”结句的用法。一般以“…てね”“…てさ”的形式出现。

10. (からといって) 以“(句子或用言终止形) からといって…ない”的形式表示“虽说…然而也不(能)…”“不能因为…而…”。△暑いからといって、冷たいものを飲みすぎるのは体によくない/不能因为热而过量喝冷饮，这对身体没有好处。

らず<sup>くろこ</sup>黒衣を着て、舞台に出れば<sup>ついたて</sup>衝立<sup>1</sup>の<sup>み</sup>蔭に身を  
きしませ<sup>2</sup>てかくれ、<sup>や たい</sup>屋台の後に腰をかがめてひ  
そみ、舞台の<sup>そで</sup>袖<sup>3</sup>では小さな<sup>たけ んえ</sup>竹の笛を吹いて、  
<sup>かえる ひぐらし とんび</sup>蛙や、<sup>まね</sup>蜩や、<sup>まね</sup>鳶の鳴き声を真似ていた。

筆十郎の生れ育ちについては「筆十郎夜話」に  
<sup>しょうじゆつ</sup>詳 述してあるから、ここでもう一度紹介する  
必要はないだろう。一冊の本で紹介されても、  
歌舞伎の世界で彼が特別<sup>あつか</sup>扱い<sup>4</sup>をされなかった  
ということ<sup>5</sup>でも分るように、彼は<sup>おおべ や</sup>大部屋俳優<sup>6</sup>  
の中で、特に<sup>せいかく</sup>変<sup>7</sup>った存在ではなかった。性格に  
したって<sup>かわ もの</sup>変<sup>8</sup>り者扱いにされたことはなかった  
し、まず<sup>いちもん</sup>その一門では目に立たない年寄りの中  
の一人にすぎなかった。彼の<sup>い</sup>特徴を云うのなら、

1.〔衝立〕一般译成“屏风”。但“衝立”只是整张的，下面装有一个底座；而“びょうぶ”则由二张、四张或六张组成，可以折迭，但没有底座。

2.〔きしませる〕“きします”的口语。意指两物相擦、相挤。这里表示挤在屏风背后。

3.〔舞台の袖〕舞台左右两侧的侧台。

4.〔扱い〕一般接在名词后面，意为“给予…的待遇”“以…看待”。△他人扱いにする/当外人看待。△変り者扱いにされる/被视为乖僻的人。

5.〔ということ〕一般表示“这一点”“这件事”，但翻译时可灵活运用。△特徴を云うのなら、その目に立たないということであつたらうか/如果说特征的话，似乎就在于不怎么显眼这一点吧。

6.〔大部屋俳優〕下级演员。大部屋：一般指大房间或下级演员的休息室。又可转义为“下级演员”。

7.〔変る〕常以“…が変る”“…が…に 変る”“変った（体言）”“変っている”的形式出现。如果以后两种形式出现时，则表

后面藏着，或是弯腰曲背地躲在屋台\*后面，要末就在侧台吹小竹笛子，模仿青蛙、茅蛸或老鸱的叫声。

关于笔十郎的出身，《笔十郎夜话》中已经有了详细的记载，这里也许不必再赘述了。尽管有一本专书介绍过他，在歌舞伎界他却并没享受什么特殊待遇；从这一点也可以看得出，在下级演员中他也并不是个受到垂青的人物。他从来也不曾被人看作是个性格乖僻的人。在同门弟子中，他只不过是个不惹人注目的老人而已。如果说他

示“与普通的不一樣”“(奇異得)与众不同”。△変った人ですね、挨拶しても黙っているんだから/是个古怪的人哪，竟连个招呼也不打。

8. (たって)由助动词“た”和接续助词“とて”复合约音而成的接续助词，接在动词、动词型助动词或“ない”的连用形后面。意义与“ても”一样，但比后者更口语化。用“たって”，后项一般用现在时。如果接在拨音后面，要变成“だって”。△そんなことを言ったって無理だよ/讲这种话也是勉强的呀。△少しぐらい痛くたって我慢するんだよ/尽管有一点儿痛，你也得克服一下啊。△死んだって降参しないよ/宁死不投降。

9. (まず)副词。有两种意思：(a)表示许多事情中某一件事首先要做的。△なんと言っても、先ず健康第一だよ/说什么也首先是健康第一呀。(b)表示在可能出现的种种结果中，其可能性最大的一种。这种场合带有“おそらく”“だいたい”的语气。△復習は十分してあるから、試験はまず大丈夫だろうよ/因为复习得很充分，所以考试看来没有问题吧。

\* 舞台上的房屋布景。

その目に立たないということであつたろうか。  
黒衣と呼ばれる者の仕事に必要なのは、実にその目に立たないということであつたから、歌舞伎劇から見れば彼は黒衣に適した役者だつたといふことができるだろう。しかし、これは勿論、役者にとって名誉な特徴ではなかつたし、彼が黒衣として特に勝れていたかどうかといふと<sup>1</sup>、それもどうもはっきりしない。

歌舞伎の稽古日数が、初日<sup>2</sup>前のほんの数日しかないということは今では常識のようになっているけれども、おかげで黒衣が苦勞するのは初日からの数日、ひどいときには上演全日数をつうじてということになる<sup>3</sup>。役者が台詞を覚える暇がないから、弟子が黒衣を着て台本を手に<sup>4</sup>物蔭にひそみ、秘かに台詞を先読みするのである。つまりプロンプターだ。黙阿弥物や義太夫<sup>5</sup>物などは、台詞に調子があるし、仮に初役でも役者なら子供のころから耳馴れているから、黒衣の方でも苦勞はしないが、新作には往生す

1. {…かどうかといふと)要説是不是…的话,那就…

2. (初日)首场演出的日子。这一天由于紧张,有说错台词的,甚至也有不能按规定时间演完戏的。闭幕演出的日子叫做“千秋楽(せんしゅうらく)”。

3. {ほんの)连体词。与“全くわずか”同。

4. {おかげで)一般用于好的结果,有“托福”“多亏”等意。

有什么特征的话，也就是不惹人注目这一点吧。扮黑衣这种角色的人也实在需要作到这一点，因此，在歌舞伎界看来，他也可以说是一个十分称职的黑衣演员。不过，对一般艺人说来，这当然不是什么值得称道的特征，因而究竟笔十郎对黑衣这种角色是不是特别胜任，也就很难说了。

歌舞伎照例是直到临公演的前几天才排练。因此，在公演的最初几天，甚至在整个演出期间，扮黑衣的都非常辛苦。演员没工夫去背台词，只好由弟子穿上黑衣，手拿脚本，藏起来预先念台词——也就是提词。默阿弥\*和义太夫的剧本，台词有腔调，演员从小听惯了，即使初次担任这种角色，黑衣也并不怎么吃力。但是新本子戏可真

---

但也有象下例那样，用于坏的结果，则有“由于”“因为”等意。△朝寝坊したおかげで、学校におくれてしまった/早上贪睡，因此上学迟到了。

5. (…を通じてということになる)即“…を通じて苦労するということになる”。这里由于“黑衣が苦労するのは”做了主题，因此谓语部分省掉了“苦労する”。“ということになる”是谓语的补助成分。

6. (…を手に)与“…を手にして”同，意为“手里拿着…”。

7. (義太夫)指竹本義太夫(1651—1714)。净琉璃(一种以三弦伴奏的说唱曲艺)的创始人。净琉璃后来分裂成为竹本、丰竹两派唱腔。

\* 即河竹默阿弥(1816—1893)，日本歌舞伎脚本作家。

る<sup>1</sup>。だいたい<sup>2</sup>台詞の数が多い<sup>かず</sup>し、この頃の先生方は台詞の調子より内容の方が大事だと云って、舌を噛む<sup>か</sup>やら<sup>3</sup>息つぎのできないような面倒<sup>めんどう</sup>な台詞を書くものだから<sup>4</sup>、黒衣は台詞の渡し方に大変な神経<sup>しんけい</sup>の使い方をすることになる。何しろ<sup>5</sup>小さくちぎりちぎりで渡していく<sup>6</sup>わけだから、どこで切ったらいいかが分りにくいと困るのだ。だいたいこの仕事は黒衣でも狂言作者<sup>きやうげん</sup>と呼ばれる人たちの仕事なのだけれども、筆十郎は年寄りの中では文字が読めるし、小柄<sup>こがら</sup>だから衝立の蔭にかくれて観客席から見えないので、いつの間にか作者の足りないときにはかり出されるようになっていた。

筆十郎が旦那<sup>だんな</sup><sup>7</sup>のプロンプターを専門にやるようになったのは、彼が決して台詞の渡し方がうまいからというのではなかったらうと思われる。旦那は始終叱言<sup>こごと</sup>を云っ<sup>8</sup>て、台詞に詰る<sup>つま</sup>度<sup>たび</sup>

1. (…には往生する)相当于“…には全く困ってしまう”。意为“不知如何是好”“无法应付”。

2. [だいたい]有两种意思：(a)表示“大致上”。△予習はだいたい終った/预习大体上结束了。(b)与“もともと”同。意为“本来”。大多作为副词用。△だいたいこの仕事は彼がやるべき仕事だ/这项工作本来应当由他来做。

3. [やら]助词。接在体言、活用词的连体形下，表示并列。

4. [ものだから]用以强调造成某种结果的原因。是顺态连接。

不好应付。本来台词就多，再加上如今写剧本的先生们总认为内容比台词的腔调还要紧，净罗里罗嗦写些绕嘴的或是接不上气儿的台词，黑衣提词就特别吃力。因为得一小段一小段地提，要是不知道该从哪里分段，可就抓瞎了。本来这种事儿该由黑衣当中被称作狂言作者\*的人们去担任，然而笔十郎在老人中间是个识字的，个子又小，藏在屏风后面观众看不见，所以不知从什么时候起，只要狂言作者不够数，他就被拉出来干这种差事了。

笔十郎开始专门给老板提词，想来决不是因为他提得好。老板对他总是埋怨，每逢台词接不

5. (何しろ)一般采用“なにしろ…だから(或なので)”的形式。表示以无能为力的心情陈述理由或情况。意为“总之”“因为”。△なにしろ人手が足りないのだから、どうにもならないよ/总而言之人手不足，毫无办法。△何しろ今日は寒いよ/因为今天冷呀。

6. (ちぎりちぎりで渡していく)ちぎり：“ちぎる”的连用形。此句意为：将一句话分成好几段提。

7. (旦那)出自佛教用语，原义为“施主”。现用以表示“主人”“老板”以及“先生”(商人对主顾的称呼)，或者用以称呼自己或别人的“丈夫”。

8. (叱言を云う)与“小言を言う”同。一般在责备或埋怨晚辈、下级所做的事情不称心时使用。本句末尾的“文句を云う”则是对上级、长辈发牢骚或对别人表示不满、提意见时使用。

9. (…に詰る)穷困，窘迫，无法…。△返事に詰る/无法回答。

\* 歌舞伎团里的脚本作者，也协助演出。

に筆十郎の台詞渡し<sup>1</sup>が下手だと文句を云った。  
役者なら台詞を覚えるのが当然で、プロンプターに責任はないという理窟<sup>りくつ</sup>は、この世界では通らなかった。悪いのは、稽古日数が足りないという、そのことでもあったからだ。舞台の出来<sup>でき</sup>の悪い日に、黒衣に当り散らす名題役者<sup>なだい</sup>の多い中で、筆十郎の旦那は物分りのいい<sup>ものわかれ</sup>方<sup>ほう</sup>だった。まず当節<sup>とうせつ</sup>では<sup>5</sup>良心的な俳優の代表格<sup>かく</sup>だったし、真面目で堅実な芸風<sup>げんじつ</sup>からファンも多く、劇評家の間でもかなり評判がいい。そんな旦那でさえ、台詞をとちる<sup>8</sup>とやっぱり苛々<sup>いらいら</sup>するの、幕が降りると衝立の後<sup>うしろ</sup>にいきなり<sup>9</sup>,

「馬鹿野郎」

一声浴びせて楽屋へ帰ってしまったりする。

詫<sup>わび</sup>を入れ<sup>い</sup>に<sup>10</sup>追いかけて行って、

1. (台詞渡し)与“台詞の渡し方”同。

2. (出来)“できる”的名词形。表示“能力”“成绩”“(做出来的)结果”。△今年的小麦はできがとてもよかった/今年小麦の收成相当好。

3. (名題役者)(剧团里的)骨干演员。凡一般演员经过考试成为骨干演员的,就从下级演员休息室搬进单人房间,可担任较重要角色,待遇也有所提高。

4. (物分りのいい)与“理窟のよく分った”同。通情达理。

5. (当節では)与“このごろでは”同。这是一种较陈旧的说法。意为“如今”“现时”。

6. (代表格)具有代表性的人。格:“资格”“等级”等意。

7. (芸風)演戏的风格。

8. (とちる)俗语。(因慌乱等而)失败。与“へまをやる”

上就怪笔十郎提得不好。演员本来应该背熟台词,责任并不该由提词的人来负,但这道理在歌舞伎界是讲不通的。同时,还应该怪排练的时间不够。遇到演出成绩不好的日子,许多名演员就朝着黑衣乱发脾气;不过,笔十郎的老板倒是个通情达理的人。眼下他在正派的演员中是具有代表性的一位,由于他演戏认真而扎实,捧场的大有人在,剧评家们对他的评价也颇高。可是就连这个老板,要是念错了词,恐怕也难免会发急;幕刚落下,就冲着屏风后边骂声“混蛋!”径自走进后台去。笔十郎追过去道歉:“刚才真对不起您。从明

---

同。这里指说错或说不出台词。

9. (いきなり)突然采取某种行动,使受动者感到出乎意料之外。有“突然”“冷不防”等意。△大学に入っていきなり試験された/进入大学之后,突然经受了一次测验。试比较:(a)不意に:使用于因其突然行动而使受动者吃惊或带来麻烦等不利情况时。△不意にお客がきたので、あわててしまった/想不到来了客人,弄得我手忙脚乱。△不意に質問されてうまく答えられなかった/突如其来受到询问,没能很好回答。(b)突然:用于状态的剧变(似乎只有吃惊,没有带来麻烦、损失的感觉)。△突然笑い出してみんなをびっくりさせた/突然笑了起来,使大家吓了一跳。△突然倒れる/突然倒下。以上三个副词都表示其动作在某一瞬间成立。(c)与上述三者不同,“急に”是一个表示在一定的时间里(尽管较短)事物迅速变化的副词。△子供がここ一年の間に急に大きくなった/这一年里孩子突然长大了。△最近、急に白髪(しらが)が増えた/最近白发忽然增多了。

10. (詫を入れる)道歉,赔不是。詫び入る:深表歉意;谢罪。

「どうも唯今は相<sup>ただいま あい す</sup><sup>みようにち</sup>1 済みません。明日から氣を  
つけますから、どうも」

両手を突<sup>つ</sup>いても鏡の中の顔は、唇を不機嫌<sup>くちびる ふ き げん</sup>に  
結んだままで、水油を掌<sup>みずあぶら て</sup>でこねて、びしゃっと  
音を立てて化粧<sup>けしょう</sup>を落している。眉も紅も油と白<sup>まみえ べに おし</sup>  
粉<sup>ろい</sup>にまじって顔中の造作<sup>ぞうさく</sup>3 がごちゃごちゃにな  
るのを眺めながら、筆十郎は旦那が自分に怒っ  
ているのではないということに気がつかず、た  
だ当惑<sup>とうわく</sup>していた。

先代<sup>せんだい</sup>からの弟子<sup>でし</sup>だから、筆十郎は旦那をおん  
ぶして寝かしつけたこともあったし、旦那が四  
つで初舞台<sup>はつぶ たい</sup>を踏んだときのこともよく覚えてい  
る。腕白時代<sup>わんぱく</sup>に矢面<sup>や おもて</sup>に立<sup>た</sup>って以来<sup>わがまま</sup>の相  
手だから、旦那の方は一番心<sup>こころやす</sup>安く思<sup>おも</sup>っていて、  
癩<sup>しやく</sup>にさわれ<sup>ど な</sup>ば怒鳴<sup>かん</sup>り、癩<sup>しやく</sup>が立<sup>た</sup>て<sup>しず</sup>ば筆十郎相手  
に爆発<sup>あま</sup>させて自分の氣を鎮<sup>しず</sup>めているのだった  
が、いわば<sup>あま</sup>甘えられているのだということに氣

1. (相)接头词。(a)下接动词，表示加强语气。△秋冷  
の候と相成りました/到了秋凉的季节。△中日平和友好条約も  
いよいよ締結と相成りまして、全く慶祝に堪えません/中日和  
平友好条約也快要签订了，实在值得庆祝。(b)下接名词，表示  
“同…”“一起…”。△相部屋/同住一个房间。△自転車の相乗り  
/骑自行车带人。△相弟子/师兄弟。

2. (両手を突く)つく：是个多义词。这里指双手着地跪  
下来赔不是。

3. (顔中の造作)指眼、鼻、耳朵、嘴等脸部的器官。

4. (矢面に立つ)指成为提问、责备的对象。矢面：众矢之